



雪印メグミルク

ぴゅあ の作り方

※熱湯やミルクの入った哺乳瓶などによる「やけど」にご注意ください。



1 器具をそろえます

哺乳びん、乳首、乳首入れ、缶封入スプーン、びんばさみ、ブラシ、ポット、鍋など、専用の器具をそろえ、ひとまとめにしておきます。



2 器具を消毒します

器具を消毒します。消毒には主に3つの方法がありますので、長く続けられる方法を選び、器具を清潔に保ちましょう。

消毒方法 1

浸け置き消毒

哺乳びん・乳首は洗剤でよく洗い、十分にすすぎます。消毒液に完全に沈め1時間以上つけておきます。調乳前に哺乳びん・乳首を取り出し、水気をよく切って使用します。(消毒液に記載の注意書きを読んでから使用してください。)



消毒方法 2

煮沸消毒

大きめの鍋に調乳器具と水を入れ、5分間(熱に弱い乳首等は3分間)煮沸します。(調乳器具を取り出す際に、やけどに注意してください。)



消毒方法 3

電子レンジ消毒

専用ケースなどに調乳器具と水を入れ、電子レンジで加熱します。(各メーカーの説明書をよく読んでから行ってください。)



3 哺乳瓶にお湯を入れます

沸騰後70℃くらいにさましたお湯を哺乳瓶にできあがり量の1/2入れます。



4 必要量のミルクを入れます

専用スプーンで必要量のミルクを正確にすりきって入れます。

※添付スプーンのすりきり1さじ(約2.6g)のできあがり量は20mlです。

※赤ちゃんの発育状況や離乳食の進み具合によりミルクの量や回数を加減してください。



5 軽くふって溶かします

哺乳瓶を軽くふって、溶かします。その際、哺乳瓶が熱くなっているのを、清潔なタオルなどで巻いて、やけどに注意して下さい。



6 できあがり量までお湯を加えます

できあがり量まで70℃以上のお湯を加え、泡の下の液面まで目盛りを合わせ、乳首をつけてさらによくときます。



7 体温くらいにさします

体温くらいにさましてから飲ませてあげてください。



8 できあがり

作った後、2時間以内に飲ませてください。



■使用上の注意(缶の場合)

- ※赤ちゃんの体質や健康状態に応じて、医師、助産師、看護師、保健師、管理栄養士、栄養士等の専門家にご相談ください。
- ※お子様の発育状況や離乳食の進み具合によりミルクの量や回数を加減してください。
- ※1回分ずつ、作ってください。つくりおきや飲み残しは飲ませないでください。
- ※缶に入っている専用スプーンを必ずお使いください。
- ※ミルクをはかり終わったら、虫やホコリ、髪の毛が入らないように、すぐにフタを締めてください。

- ※スプーンはよく洗って乾燥させ、缶の中に入れず衛生的に保管してください。
- ※電子レンジで加熱しないでください。
- ※ミルクに水滴が入ると固まりますので、ぬれたスプーンは使用しないでください。
- ※湿気の多い場所や火のそば、直射日光のあたるところに置かないでください。
- ※冷蔵庫や冷凍庫に入れないでください。
- ※開缶後は1ヶ月以内にお使いください。

■使用上の注意(スティックの場合)

※一度封を切ったスティックは残さず、すぐにお使いください。

■ミルクの標準使用量

月齢(か月)	~1/2	1/2~1	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~9
体重のめやす(kg)	3.0	3.7	4.8	5.8	6.5	7.1	7.5	7.5~8.4
一回の標準調乳量	「雪印メグミルク ぴゅあ」(さじ)	~4	6	7	8	10	10(7)	11(4)
	できあがり量 (ml)	~80	120	140	160	200	200(140)	220(80)
1日の授乳回数	7~8	6	6	6	5	5	4+(1)	3+(2)

- 1さじはすりきりで約2.6g、できあがり量は20mlになります。
- この表示に示す量は標準的なものですから、赤ちゃんの個人差に合わせて量や回数を加減してください。
- ()内は離乳食のあとのミルクを飲ませる場合のめやすです。離乳食後のミルクの量は、離乳の進み具合に合わせて加減してください。